

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
国際テクニカル美容専門学校	平成17年12月27日	會澤 洋輔	〒323-0807 栃木県小山市城東1丁目106番地21 (電話) 0285-21-3991																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人 ティビィン学院	昭和60年3月26日	理事長 齋藤 武士	〒320-0811 栃木県宇都宮市大満り1-2-5 (電話) 0285-20-5088																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
衛生	衛生専門課程	美容学科	平成19年文部科学省 告示第17号	-																						
学科の目的	①美容師国家試験に合格できる技術・知識の習得 ②美容師として実践的な技術習得 ③接客業としてのマナー習得																									
認定年月日	平成 28年 2月 19日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	2,010時間	690時間	0	900時間	0	420時間																				
生徒総定員	生徒定員	留学生数(生徒定員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
80人	67人	0人	8人	5人	13人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価																							
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月18日～3月31日		卒業・進級 条件																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ①クラス担任による本人・保護者への電話連絡 ②学科長および教務部長面談		課外活動 ■課外活動の種類 ①各種美容技術大会への参加 ②外部メーカー、ディーラー主催のヘアショーやイベントへの参加。 ■サークル活動: 有																							
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 美容室、マツエクサロン、結婚式場		主な学修成果 (資格・検定等) ※3																							
	■就職指導内容 1年次に他学科と合同で就職研修および面接試験。科目の 就職実務での履歴書作成やエントリーシート記入などの指導。																									
■卒業者数		32人	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美容師国家試験 実技</td> <td>②</td> <td>32人</td> <td>31人</td> </tr> <tr> <td>美容師国家試験筆</td> <td>②</td> <td>32人</td> <td>32人</td> </tr> <tr> <td>AFT色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>32人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>サービス接遇</td> <td>③</td> <td>32人</td> <td>27人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	美容師国家試験 実技	②	32人	31人	美容師国家試験筆	②	32人	32人	AFT色彩検定3級	③	32人	21人	サービス接遇	③	32人	27人
資格・検定名	種	受験者数					合格者数																			
美容師国家試験 実技	②	32人					31人																			
美容師国家試験筆	②	32人					32人																			
AFT色彩検定3級	③	32人					21人																			
サービス接遇	③	32人	27人																							
■就職希望者数		32人																								
■就職者数		32人																								
■就職率		100%																								
■卒業者に占める就職者の割合		100%																								
■その他 ・進学者数: 0人																										
(平成 30年度卒業生に関する 令和元年5月1日時点の情報)																										
中途退学 の現状	■中途退学者 3名 ■中途退学率 4.47%																									
	平成30年4月1日時点において、在学者67名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者64名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更のため ■中退防止・中退者支援のための取組 欠席・遅刻の多い学生への早期面談や保護者との連絡・面談。																									
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ①筆記試験・資格経歴の学費給付試験(120万円～3万円) ②学習歴の学費給付試験Ⅱ(120万円～3万円) ③グループ出願奨学金(5万円～3万円) ④大学・短大・社会人奨学金(最大10万円) ⑤後継者入学奨学金(最大30万円) ⑥チャレンジAO小論文(最大10万円) ⑦家族入学(最大10万円) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 対象者 1名																									
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科の ホームページ URL	https://www.oyama.ac.jp/biyou/biyo-course.html																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者から除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経済的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自営・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学校の授業内容や技術・接客などが、実際の現場と乖離していないかを意見交換し、カリキュラムの改善策について検討し、改善を図り、それを活かして学生指導に取り入れる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学生に指導にあたる教員を含め、美容室経営者やスタッフ及び美容業界関係者に意見をいただき、カリキュラム編成などについて検討し、今後の授業へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
山本 勝弘	一般財団法人 国際美容協会 東北・北関東ブロック長	平成31年4月1日～令和2年3月31日	①
吉田 将人	有限会社 マジックコーポレーションリミテッド 取締役社長	平成31年4月1日～令和2年3月31日	③
小山 智弘	国際テクニカル美容専門学校 学科長		
押坂 麻美	国際テクニカル美容専門学校 教員		
五月女 恭徳	国際テクニカル美容専門学校 教員		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月下旬～8月上旬、9月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年8月2日 14:30～16:00

第2回 平成30年9月19日 14:00～15:20

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

第1回目で指摘のあった校外実習が年1回だと、数多くあるサロンの中から希望先を選択するのに増やせれば学生にもサロン選びの参考にもなるのではとの吉田委員からのアドバイスもあり、年度末に1年生の校外実習を増やした。これにより進級した後の学生の早期内定が増えた。今年度も年度末に1年生は校外実習の年間予定を立てている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際の美容室での現状を教え、現場で即戦力となる学生を育てるため、栃木県・茨城県の実習室や美容ディーラーの協力を頂き指導する。実施後、企業や学生からの実習等の報告をもとに、その効果を検証しながら改善・改良を図る。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

メイク・ヘアカラーリング・パーマ・アップなどより実践的でサロンの技術に即した美容技術を現場の美容師やメーカーのインストラクターから直接指導をいただき技術を習得する。実習には教職員も立会い、企業より理解度や授業態度などの評価をもらい、今後の指導に活かしていく。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
美容実習	化粧品メーカーのインストラクターによるメイクの基礎・実践授業	株式会社ガモウ 株式会社ARIMINO
美容実習	ヘアカラーのメーカーと現場の美容師による実践的ヘアカラー講習	株式会社ガモウ 株式会社P&G 匠
美容実習	パーマ液のメーカーと現場の美容師による実践的パーマ講習	株式会社ガモウ 株式会社ARIMINO Be-Posh
応用技術	ネイルサロン経営者 JNA1級講師のネイル3級対策授業	Peony
コース	都内でオーナー美容師の卒業生のカット講習	Large

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

日本理容美容教育センターや関東地区理容師美容師養成施設協議会主催、各美容ディーラーやメーカー主催の研修会や講習会に教員を派遣し、最新の美容技術や教育方法を習得させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「美容技術理論および実習教員研修会」(連携企業等: 日本理容美容教育センター)

期間: 平成30年11月26日(月)～12月11日(火) 対象: 押坂 麻美

内容: 必修科目「美容技術理論・美容実習」の教員資格研修

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「関東地区理容師美容師教職員地区研修会」(連携企業等: 日本理容美容教育センター)

期間: 平成30年9月28・29日(金・土) 対象: 五月女 恭徳

内容: 心の問題や悩みが多い学生に向けての指導力向上の研修会

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「美容技術理論および実習教員研修会」(連携企業等: 日本理容美容教育センター)

期間: 令和元年 7月25日(木)～8月9日(金) 対象: 五月女 恭徳

内容: 必修科目「美容技術理論・美容実習」の教員資格研修

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「関東地区理容師美容師教職員地区研修会」(連携企業等: 日本理容美容教育センター)

期間: 令和元年 10月4・5日(金・土) 対象: 小山 智弘・五月女 恭徳

内容: 学生指導力向上やSNSについてのグループディスカッション研修会

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

企業や地域と密接かつ組織的に連携体制を確保し、質の高い教育を提供し、その状況をホームページなどを通じ社会に広く本校の情報を提供する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	建学の精神・目的・目標・人材像を明文化し、学生保護者に周知されているか
(2)学校運営	学校管理、運営体制が確立しているか
(3)教育活動	カリキュラム作成、実践的職業教育が体系的に位置づけられているか 授業評価の実施があるか。教員の指導力向上の取り組みがされているか。
(4)学修成果	美容師国家試験をはじめ資格取得の向上が図られているか。退学率の低減がされているか
(5)学生支援	教育目標に向けて、卒業後まで学生視線が整備され活用されているか
(6)教育環境	教育目標に向け、教育環境が整備されているか。また防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動が適正に行われているか。学納金は妥当か。
(8)財務	中長期的な財務基盤は安定しているか。予算収支計画は有効かつ妥当か。
(9)法令等の遵守	学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検、評価の実施体制が確立しているか
(10)社会貢献・地域貢献	計画的、組織的に社会活動へのとりくみを推進しているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

社会一般や美容業界の現場での求められている即戦力の学生を送り出せるよう、適宜授業に取り組んでいる。また、離職率を改善するためにも保護者にも業界を理解してもらえるよう保護者面談でも説明している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
稲葉 公一	鮎菜 経営者	平成31年4月1日～令和2年3月31日	地域代表
宮本 敦子	PTA会長(デザイン自動車・美容)	平成31年4月1日～令和2年3月31日	PTA代表
大山 順子	PTA会長(調理)	平成31年4月1日～令和2年3月31日	PTA代表
生島 大志	株式会社EYES 代表取締役社長	平成31年4月1日～令和2年3月31日	卒業生代表
後藤 雄祐	一般財団法人 栃木県自動車整備振興会 教育技術部長	平成31年4月1日～令和2年3月31日	企業等委員 (自動車)
酒田 守視	亀田自動車株式会社 専務取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日	企業等委員 (自動車)
鈴木 貴嘉	株式会社シンコー 代表取締役社長	平成31年4月1日～令和2年3月31日	企業等委員 (自動車)
蓮見 公男	茨城県印刷工業組合 副理事長	平成31年4月1日～令和2年3月31日	企業等委員 (デザイン)
堀田 奈緒	おやまくまる一む デザイナー	平成31年4月1日～令和2年3月31日	企業等委員 (デザイン)
杉浦 豊彦	栃木県文化協会 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日	企業等委員 (エンタメ)
多田 慎也	株式会社 lifetone music	平成31年4月1日～令和2年3月31日	企業等委員 (エンタメ)
小矢島 久雄	全日本司厨士協会 栃木県本部副会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日	企業等委員 (シェフ)
田中 一夫	和風ダイニング彩華 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日	企業等委員 (シェフ)
日向野 保	栃木県洋菓子協会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日	企業等委員 (パティシエ)
樋口 勇一	ロワイヤル オーナーシェフ	平成31年4月1日～令和2年3月31日	企業等委員 (パティシエ)
山本 勝弘	一般財団法人 国際美容協会 東北・北関東ブロック長	平成31年4月1日～令和2年3月31日	企業等委員 (美容)
吉田 将人	有限会社 マジックコーポレーションミット 取締役社長	平成31年4月1日～令和2年3月31日	企業等委員 (美容)

佐藤 利彦	有限会社ブレア 専務取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日	企業等委員 (トータルビューティ)
鈴木 千春	Heartfulone 代表	平成31年4月1日～令和2年3月31日	企業等委員 (ブライダル)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.oyama.ac.jp/biyou/biyo-course.html>

公表時期: 令和元年 10月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業や地域と密接かつ組織的に連携体制を確保し、質の高い教育を提供し、その状況をホームページなどを通じ社会に広く本校の情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	建学の精神・目的・目標・人材像を明文化し、学生保護者に周知されているか
(2)各学科等の教育	学校管理、運営体制が確立しているか
(3)教職員	カリキュラム作成、実践的職業教育が体系的に位置づけされているか 授業評価の実施があるか。教員の指導力向上の取り組みがされているか。
(4)キャリア教育・実践的職業教育	美容師国家試験をはじめ資格取得の向上が図られているか。退学率の低減がされているか
(5)様々な教育活動・教育環境	教育目標に向けて、卒業後まで学生視線が整備され活用されているか
(6)学生の生活支援	教育目標に向け、教育環境が整備されているか。また防災に対する体制は整備されているか
(7)学生納付金・修学支援	学生募集活動が適正に行われているか。学納金は妥当か。
(8)学校の財務	中長期的な財務基盤は安定しているか。予算収支計画は有効かつ妥当か。
(9)学校評価	学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検、評価の実施体制が確立しているか
(10)国際連携の状況	計画的、組織的に社会活動へのとりくみを推進しているか
(11)その他	0

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.oyama.ac.jp/biyou/biyo-course.html>

授業科目等の概要

(衛星専門課程 美容学科) 令和元年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			関係法規・制度	美容師の業務に関する衛生法規および公衆衛生の維持向上を理解する。	1通	35	1	○			○			
○			衛生管理	公衆衛生・環境衛生を理解する。 感染症の知識を理解する。 消毒方法や消毒薬の特徴を理解する。	1通 2通	70	2	○			○			
○			保健	美容技術の基礎となる人体構造および機能に関して科学的・系統的に習得し美容業務を安全・効果的に行うことを理解する。	1通 2前	105	3	○			○			
○			化粧品化学	物理・化学の基本を理解し、美容器具や道具および化粧品の取り扱い方法や特徴を理解する。	1通	70	2	○			○			
○			美容文化論	美容文化史・美容デザインを通じて、美的感覚を身につける。	1通	70	2	○			○			
○			美容技術理論	美容技術についての知識を習得し、美容道具や器具の使用方法を理解する。	1通 2前	175	5	○			○			
○			美容運営管理	経営・労務管理の基本的事項を学習し、美容室の経営に役立たせる。	1通	35	1	○			○			
○			美容実習	美容業務を安全かつ効果的に行うために、基本的操作を確実に身につける。	1通 2通	1050	30				○	○	△	○
		○	コース選択	より実践的なカットやカラーリングなどを身につけるヘア・アーティストコースとより実践的なメイク・ネイル・まつげエクステなどを身につけるメイク・ネイル・アイリストコースを希望により選択して実施。	2通	210	6				○	○		○
	○		接客マナー	美容業を行う上で必要なビジネスマナーの習得をする。	1通	35	1	○			○			○
	○		色彩学	ヘアカラー・メイク・ネイルなどを行うために必要な色の知識を習得する。	1通	70	2	○			○			○

○	外国語	美容室で使用される外国語を中心に学ぶ。	1 通	35		○		○		○			
○	就職実務	就職活動の方法の理解、内定獲得をするために面接の模擬練習などの行う。また現役美容室経営者を招き面接のポイントなどの講演を行う。	1 通 2 通	70	2	○		○		○			
○	応用技術	ネイル・メイク・ヘアカラーなどの基本技術を理解。現役美容師にも実習を定期的に担当してもらい技術力向上を目指す。	1 通 2 通	280	8	△	○	○	△	○	○	△	○
合計			13科目	2,135時間(67単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
100点満点で評価し、60点未満は補習・追試験を行う。全単位修得し、進級及び卒業試験に合格すること。	1学年の学期区分	前後期
	1学期の授業期間	前17週後18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。